令和８年度　長崎県看護協会県南支部看護管理者等交流会
「災害発生時の対応を考える」を開催しました

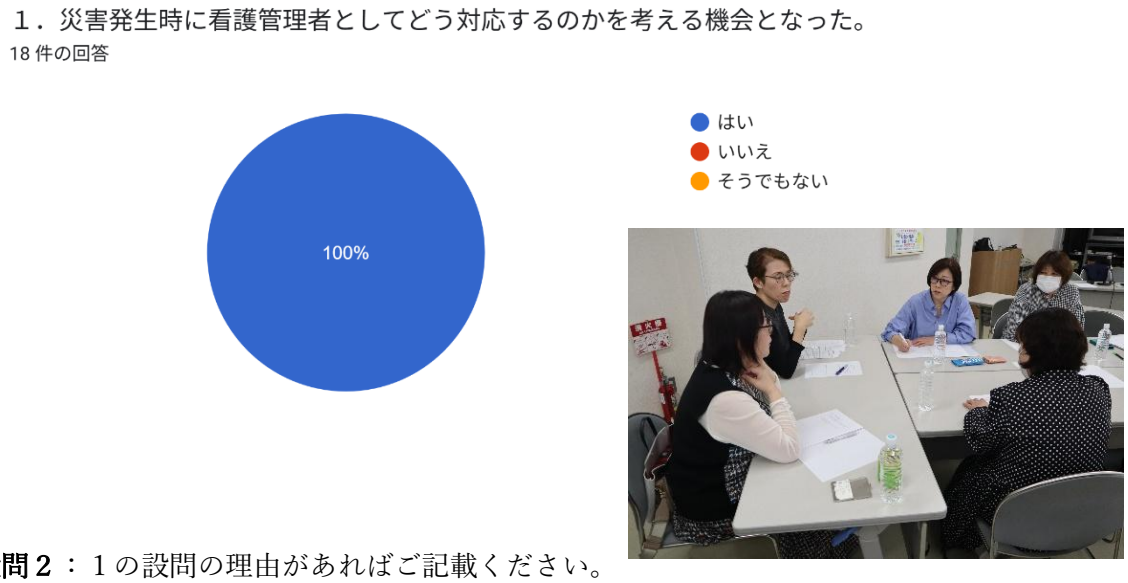
開催日：10/24（土）　14：00～16：00

会　場：長崎タクシー会館　４階会議室　　参加者：32 名　回答者：18 名　回収率 56%

※アンケートは Googleforms で作成

災害支援ナースについて
（余里専務理事）

設問１：災害時に看護管理者としてどう対応するのかを考える機会となったか。



設問２：１の設問の理由があればご記載ください。

・災害に限った連絡網の作成など考える良い機会となった

・食事、連絡方法など他施設の取り組みが知れたと共に、自施設の課題を見出すことができました。連携と備蓄について再度検討していきたい

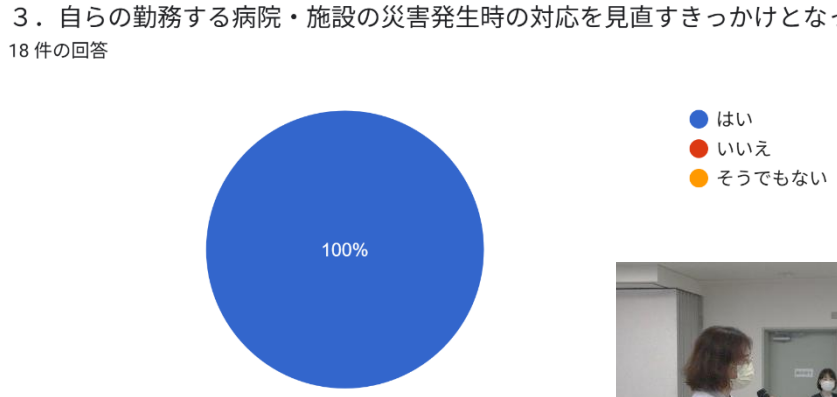
・他の施設の取り組みを知ることで、参考になった

・実践に則した災害訓練の提案をしたい。

①全職員に受けたい災害訓練をアンケート形式で実施し、自分が知りたい受けたい訓練なら身につくと感じた。
②地域のクリニックも参加できる訓練
③同規模病院と意見交換する

・ほかの施設の活動を学ぶことができたので、自院でも検討したい。職員の備蓄品は各所属に配置してあるのは良いと思った。

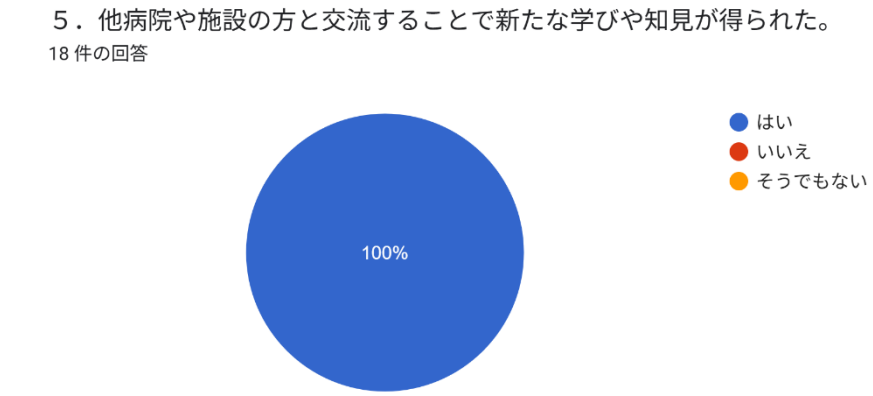
設問 3：自らの勤務する病院・施設の災害発生時の対応を見直すきっかけとなったか。



設問 4：3 の設問の理由があればご記載ください。

・使えるマニュアルの作成
・細かいところまでは、詰めてないところもあるので、もう一度確認していきたい。
・他施設の話しを聞き、大変参考になりました。
・災害時のマニュアルはあるが、具体的にどう動けばいいか、訓練していかなければならないと思いました。
・火災だけでなく、地震の訓練も行なってはいるが、想定できることが不足していると考えられる。実際の被災状況を情報収集し、訓練自体をアップデートしていかなくてはいけないと感じた。
・職員の保存食について考えていなかったので、他施設の取り組みを持ち帰りたい
・アクションカードは、現在透析室しかないが今後は各部署での作成が必要。

設問 5：他病院や施設の方と交流することで新たな学びや知見があったか。



設問 6：5 の設問の理由があればご記載ください。

・プラスメッセージなど参考になった。
・連絡方法でつなぐやプラスメッセージなど
・アクションカードを導入しているところがあり、各々が確認しながら、行動するというのは良いと思った。緊急時はパニックになり動けなくなるのでいい取り組みだと思う。
・顔の見える関係作りになる
・当院は、各部署長が職員の安否確認や情報発信をするようにしているが、発災場面では他のこと(患者対応その他)に労力を使わなければならないのではないか。職員の安否や出勤可否などは、職員一人ひとりからの情報をひとまとめにして、事務職員などにまとめてもらう方法に変更することも検討したい。
・職員の保存食保管についてや、訓練体制、連絡手段の情報を自施設へ早く紹介したい。
・在宅看護の対応の難しさしることができた
・どの施設も災害対策については検討工夫されていると感じたので自分も頑張ろうという気持ちになった。長崎県は地震や災害が少ないが、今後も自分事として考えるように職員へ働きかけて行くことが重要である事を再認識した。

設問 7：運営やこの交流会についてご意見等ございましたらご記載ください。

・アクションカードなど実際に見れると良いと思った
・グループ分けも工夫され、勉強になりました。天候が不安定な中、準備と実施ありがとうございました。DMAT 隊員方の講演わかりやすくあっという間の充実した交流会でした
・もう少し話しあう時間がほしかったです
・グループワークの時間が短く感じた。災害時の本部設置は 1 回しかしたことがない。各部署からの報告を受けてシートに私が「ひと」に関することを記入する総務が「もの」を記入すると役割分担はしてあるが、これをパッと見わかりやすく院長への報告をするための工夫を模索中。チェックシートにしてもしかりで他の施設の意見を聞きたかったが時間が足りなかった。しかし、良い研修会の場をありがとうございました。
・今回紹介をメインにしてもらったので、次回があれば具体的な本部運営などの取り組みなどがあればいいなと感じました。貴重な内容で面白かったです。

結果まとめ

アンケートの回収率が低かった要因として、交流会終了時にアンケート用紙を配布し、記入時間を設けないまま閉会したことが考えられる。交流会のプログラム内にアンケート記入時間を設定していれば、より多くの意見を収集できた可能性があり、今後の運営における改善点として検討したい。

一方、回答が得られたアンケート結果からは、交流会の内容に対する満足度は概ね高く、参加者に有意義な機会を提供できたことがうかがえた。また、本交流会の目的の一つであった施設間交流も活発に行われ、他施設の災害対策や取り組みを知る貴重な機会となった。

さらに、看護管理者の視点から災害対応をより具体的に学ぶ実践的な研修や意見交換の場を希望する意見もみられた。今後は、看護管理者が災害対応について継続的に学び、考える機会を定期的に設けていくことが重要であると考える。